



令和5年3月15日
第867号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区千代田一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

令和5年度 事業計画 組織継承が柱 第27回理事会・第18回評議員会で承認

日本遺族会は、2月21日、第27回理事会、翌22日、第18回評議員会を九段会館テラスで開催した。昨秋以来、常務理事会等で議論を重ねられていた「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」、青年部育成・拡大策が令和5年度活動方針・事業計画の柱として、理事会で承認され、評議員会においても承認された。

理事会、評議員会は、九段会館テラスに本部事務所を移転して初めての開催となった。冒頭の挨拶に立った水落会長は、令和5年度活動方針・事業計画の柱は、喫緊にして最大の懸案である組織の継承だと述べ、「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」、青年部育成・拡大策への理解を求めた。

また、慰霊友好親善事業の推進も承認された。この他、令和5年度収支予算、本会役員の旅費支給の一部改正が承認され、女性部長会及び事務局局長協議会の役員改選等が報告された。

会議は、英霊顕彰運動及び処遇改善の経過並びに今後の運動方法、令和4年度本会会計予算の補正が承認された。その後、令和5年度事業計画・活動方針が審議された。組織継承策として、令和7年度に最終償還が迫る特甲の継続に向けた運動を平和の語り部事業の創設と共に展開することが説明された。



九段会館テラスで初の理事会=2月21日、九段会館テラスの本会会議室で

戦没者遺骨帰還に関する特命委員会(委員長・福岡資麿参議院議員)の役員会が2月15日、自由民主党本部で開かれ、日本遺族会から水落敏栄会長が出席した。役員会には佐藤正久(参議院議員)同委員会事務局長の進行が始まり、初

遺骨収集特命委員会を推進 推進法期間延長を検討

戦没者遺骨帰還に関する特命委員会(委員長・福岡資麿参議院議員)の役員会が2月15日、自由民主党本部で開かれ、日本遺族会から水落敏栄会長が出席した。役員会には佐藤正久(参議院議員)同委員会事務局長の進行が始まり、初めに戦没者遺骨の鑑定に関するヒアリングが行われ、専門家から身元特定のDNA鑑定の流れ、所属集団判定に用いられる分析方法等について説明があり、委員からは早期に身元を特定し遺族へ遺骨を返還するためにDNA鑑定を実施する機関の



遺骨帰還特命委員会に出席した水落会長=2月15日、自由民主党本部で

日本遺族政治連盟は、九段会館テラスにおいて2月21日理事会、翌22日には評議員会を開催した。両会議では、第20回統一地方選挙・立候補者の本連盟第1次推薦について報告後、令和5年度歳入歳出予算案や令和5年自民党員獲得目標について審議した。

理事会 開催 日本遺族政治連盟

拡充強化が必要であるとの意見が出された。また、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」改正のための検討項目を本多則厚厚生労働省大臣官房審議官(援護担当)が説明し、集中実施期間の5年延長、その終期を令和11年度とする案

が示された。これに対し、早急に法案を成立させるためにも、法改正は集中実施期間の延長に特化し、その他、遺骨鑑定の推進、米軍の遺骨調査機関DPA Aとの協力等については、平成28年に閣議決定された「戦没者の遺骨収集の推進に関する

洗心懇談会開催 九段会館テラスで

靖国神社等、14団体で構成する洗心懇談会の定例会が2月15日、日本遺族会主催で九段会館テラスにて開催された。同懇談会には、水落敏栄本会会長、盛川英治事務局長が出席し、関係団体を代表して水落会長が挨拶をした。その後、各団体より活動状況等について説明等や、意見交換が行われた。



水落会長が挨拶する洗心懇談会=2月15日、九段会館テラスの本会会議室で

声なき声

ロシアによるウクライナの侵攻から1年が経過した。終わりのなき戦いが続いている▼プーチンは、ウクライナから東部ロシア系住民を開放するという妄想を理由とし、首都キーウ近郊のブチャをはじめとする全土で、無抵抗な住民に対しての虐殺や暴行など殺戮を続けている▼ウクライナ戦死者1万人超、ロシア戦死者は14万人超(ウ軍23年2月発表)、ウクライナ戦死者6万1200人超、ロシア戦死者6000人弱(口国防省22年9月発表)と両国の報道に隔たりがあるが、多くの犠牲者が出ていることに間違いはない。国連人権高等弁務官事務所によれば、ウクライナの民間人被害者1万3287人が負傷(うち子供954人)、死者は8004人(うち子供487人)とされる(23年2月発表)▼愚かな指導者が始めた戦争が多くの尊い命を奪っている。いつの世も戦争に巻き込まれるのは罪のない市井の人々で、その最たるものが子供だ▼戦争に理由はない。ありふれた日常を根こそぎ奪い、残るのは、悲しみや憎しみしかないことを77年前の記憶として伝えるのは、まさに今、遺族にしか出来ない。戦争に抗う道は、記憶の継承しかない。さあ、「平和の語り部」を共に始めましょう。(M)

謹 哀悼

山田 大氏 日本遺族会前常務理事。岐阜県遺族会前会長。令和5年3月5日、逝去された。78歳。葬儀は岐阜市千手堂野々村斎場で行われた。

遊就館 特別展 海鳴りのかなた ~波間より現れる戦中の記憶~ 後期展示 令和5年12月3日(日)まで 主な展示品 英霊の御遺品や手記、沈没した艦船から引き揚げられた日用品など 靖国神社 遊就館 [休館日] 令和5年6月26日(月)~28日(水) [開館時間] 午前9時~午後4時30分(入館は閉館の30分前まで) [拝観料] ●大人 300円 ●大学生 200円 ●高校生 100円 ●中学生以下及び常設展拝観者・崇敬奉賛会会員無料 東京都千代田区九段北 3-1-1 電話:03-3261-8326 https://www.yasukuni.or.jp/

硫黄島から25柱収容

千鳥ヶ淵墓苑で遺骨引渡式

日本戦没者遺骨収集推進協会は、1月30日から2月16日まで硫黄島遺骨収集第4次派遣を実施した。令和4年度最後の同島の本派遣では、25柱が収容され、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で挙行された引渡式で厚生労働省へ引き渡された。硫黄島での収容遺骨概数は1万614柱となった。なお、派遣団の班長を青年部からの参加者が務めた。

硫黄島遺骨収集第4次

派遣は、本会から4人が参加協力し、その他硫黄島協会、小笠原村在住硫黄島旧島民の会、JYM A日本青年遺骨収集団等社員団体の参加者総勢26人の団員で構成された。派遣団員は全員、渡島する2日前の1月30日に埼玉県狭山市内のホテルに宿泊してホテル室内で自主隔離とし、出発前日及び出発当日に抗原検査

で全員陰性と確認してから、2月1日に入間基地を出発し、硫黄島に入島した。翌日に再度抗原検査を行い、新型コロナウイルス対策を万全にしたうえで、3日から収容作業に入った。

派遣団は、第3次派遣から引き続き南部落付近を中心に遺骨の収容にあたった。

壕内及び地表にある遺骨収容作業は、壕の底まで掘り進め、土砂を排除して、遺骨の所在を確認するが、長い年月の経過により土砂等の堆積物に不発弾とともに埋没しているため、団員は細心の注意を払って、遺骨の発見に努め、22柱を収容した。この他、すでに収容され保管されていた遺骨3柱を含め、25柱の遺骨を奉持し、2月15日、派遣団はすべての任務を終えて帰還した。

翌16日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での遺骨引渡式で、出迎えた遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、派遣団員

から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡された。今回の派遣では戦没者の孫が1人参加し、本会の班長を務めた。遺骨収集事業には戦没者の孫、ひ孫等の青年部からの参加者も年々増えており、体験したことを「平和の語り部」として伝えていく青年部のこれからの活躍が期待される。

また、戦没者の遺見として、最愛の人を失った遺族の悲しみや戦後の苦労、一柱でも多くのご遺骨を一日も早く日本にお返ししたいという遺族の切なる願いを伝えた。

そのうえで収容した遺骨から歯などの検体を採取し、日本でDNA鑑定等を行い、日本人の蓋然性が高いと判定されれば、現地で焼骨を行ったうえで日本へと送還する

た。その後、コロナ禍を経て、海外への渡航緩和の状況に鑑み、実施に向け検討が重ねられ、本年2月、バングラデシユで戦後初めて遺骨収集を実施する地域であることか

ら、推進協会は、遺骨収集を実施するため現地地政府機関等と慎重に協議する必要がありと判断し、水落会長を団長とする派遣団を編成して、2月3

マリアナ諸島で現地調査

関係当局の協力のもと推進はかる

日本戦没者遺骨収集推進協会は、1月から2月にかけてマリアナ諸島のグアム島、サイパン島の各地域へ現地調査団を派遣した。

本会からは、それぞれ8日間実施した。前回現地地派遣団員が

グアム島でのマリアナ諸島現地調査派遣第6次は、現地当局との調整が難航して昨年12月から延期され、2月1日からの8日間実施した。

マリアナ諸島(第6次)グアム島でのマリアナ諸島現地調査派遣第6次は、現地当局との調整が難航して昨年12月から延期され、2月1日からの8日間実施した。

マリアナ諸島現地調査派遣第7次は、1月29日から2月10日の13日間、サイパン島で実施した。

到着後、在サイパン領事事務所北マリアナ諸島歴史保存局に表敬し、制約事項や懸案事項等を協議し許可を得て実施した。

この派遣では南部落付近にある蓋然性が高いと判断された遺骨、推定柱数14柱及び認識票、万年筆等の遺留品も発見された。

また、北部落付近では各発見場所から日本人戦没者である蓋然性が高いと判断された遺骨、あわせて推定柱数22柱を発見した。今次派遣では推定柱数合計36柱を収容し、北マリアナ諸島歴史保存局に安置した。

今後北マリアナ諸島関係当局の協力のもと遺骨収集活動を推進する。

先の大戦で、英国軍の捕虜収容所等で亡くなったバングラデシユの戦没者墓地に日本兵が埋葬されているとの情報を入手した。

内容は、バングラデシユのチッタゴン県戦没者墓地に推定19人、コミラ県マイナマティ戦没者墓地に推定24人が埋葬されているというもので、厚生労働省は平成26年に現地を視察し、両墓地において埋葬者の墓石を確認するとともに、墓地を管理するCWGC事務所から埋葬されている日本兵に関する情報を確認出来たため、遺骨収集団を派遣する予定であったが、平成28年に首都ダッカで起きたテロ事件により治安が安定するまでの間、派遣の実施を見合わせてい

バングラデシユ現地調査

遺骨収集推進協会

先の大戦で、英国軍の捕虜収容所等で亡くなったバングラデシユの戦没者墓地に日本兵が埋葬されているとの情報を入手した。

内容は、バングラデシユのチッタゴン県戦没者墓地に推定19人、コミラ県マイナマティ戦没者墓地に推定24人が埋葬されているというもので、厚生労働省は平成26年に現地を視察し、両墓地において埋葬者の墓石を確認するとともに、墓地を管理するCWGC事務所から埋葬されている日本兵に関する情報を確認出来たため、遺骨収集団を派遣する予定であったが、平成28年に首都ダッカで起きたテロ事件により治安が安定するまでの間、派遣の実施を見合わせてい

た。その後、コロナ禍を経て、海外への渡航緩和の状況に鑑み、実施に向け検討が重ねられ、本年2月、バングラデシユで戦後初めて遺骨収集を実施する地域であることか

ら、推進協会は、遺骨収集を実施するため現地地政府機関等と慎重に協議する必要がありと判断し、水落会長を団長とする派遣団を編成して、2月3

日、バングラデシユ外務省関係者と握手する水落会長は2月9日、ダッカで

流れや、日本には英国とも異なり遺骨を家族の元に返す習慣があることを丁寧に説明した。そして、推進協会、日遺会長として、八十年近くに渡る墓地の管理に対し、感謝と敬意を伝えた。

派遣団は、各県戦没者墓地で、埋葬者の墓石や銘板に刻まれた日本兵埋葬者の氏名などを確認し、花を手向けて全員で拝礼と黙とうを捧げるとともに英連邦戦没者の碑

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた下記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

桑原茂樹、今泉有輝子、水田和正、宮森智久、狩野平左衛門岳也、安森恭子、内野慎吾、馬場里子(以上、2月1日から2月末日まで)

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善等の活動費に利用させていただいております。

本会の諸会議

▼第18回評議員会 2月22日 詳細記事1面に記載。

▼第27回理事会 2月21日 詳細記事1面に記載。

▼第27回理事委員会 2月21日 詳細記事1面に記載。

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されたい。



急斜面の現場で、木の根元から遺骨を調査する団員 =サイパン島北部マツビで

また、戦没者遺骨の情報提供の呼び掛け及び周知活動を実施した。

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)

マリアナ諸島(第7次)



南部落付近を中心に遺骨の発見に努めた =硫黄島で



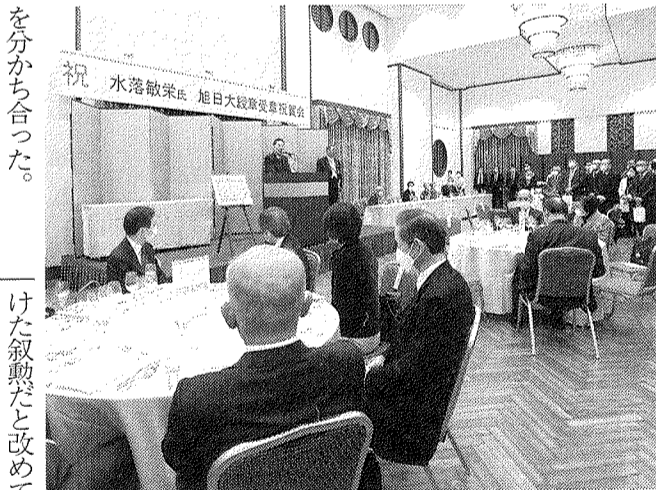
バングラデシユ外務省関係者と握手する水落会長は2月9日、ダッカで

水落会長 叙勲受章祝賀会を開催 九段会館テラスで

令和4年秋の叙勲において旭日大綬章を受章した水落敏栄本会会長の叙勲祝賀会が2月21日九段会館テラス真珠の間で開催された。会場には岸田文雄内閣総理大臣をはじめ、7閣僚が駆けつけ、文科副大臣時代、五輪担当として人脈を培ったスポーツ関係者、支援団体に加え、全国から遺族会役員、友人等280人余りが参集した盛大な祝宴となった。



岸田文雄内閣総理大臣が駆けつけ握手を交わす
=2月21日：九段会館テラス真珠の間で



人生の師である古賀名誉顧問から祝辞を受ける
=2月21日：九段会館テラス真珠の間で



来場者へ挨拶をする水落会長と橋本参議院議員(発起人)
=2月21日：九段会館テラス真珠の間で

叙勲祝賀会は、水落た。会場には、全国の遺族会役員、遺児の仲間が駆けつけ、慣れ親しんだ九段会館真珠の間で、お祝いと共に旧交を温めた。また、会場には、岸田内閣総理大臣を筆頭に、7閣僚、多くの国会議員が駆けつけた。挨拶に立った岸田総理は、古賀誠先生のお導きで宏池会と共に汗を流した同志と呼びかけ、遺骨収集推進法の取りまとめに加え、社会保障、農業政策等幅広い分野の活躍を称え、佐渡金銀山世界遺産登録の国内推薦決定の立役者だと持ち上げた。そして、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐ「平和の語り部」の意義を認め、世界の恒久平和をけん引する日本遺族会会長として、更なる活躍を祈念すると述べた。

この他、古賀誠名誉顧問、林芳正外務大臣、加藤勝信厚生労働大臣など閣僚をはじめ、関口昌一参議院議員会長、遠藤利明自民党総務会長など、政府、衆参議院、与

党の大物が挨拶に立った。加えて、2期2年余の長期間にわたり文部科学副大臣を務め、五輪担当として東京五輪の成功を目指し共に働いた山下泰裕日本オリンピック委員

員会会長など幅広い交友関係が垣間見えた。また、逢沢一郎遺族会会長が垣間見えた。3期18年の議員活動はもとより、半世紀にわたり遺族会活動に従事したことが評価されたものと述べ、ご遺族を代表して受けた叙勲だと改めて謝辞を述べた。加えて、遺族会活動を応援してくださる多くの議員、関係各位にお礼を述べた。この上は、二度と私たちのような遺族を出さないため、恒久平和な社会を希求する遺族会活動を次世代へ継承することを最後のご奉公として、尽力すると決意を述べると会場から決意を述べると会場からは割れんばかりの拍手が起った。発起人であり、水落会長の友人である橋本聖子参議院議員は、盛会となった所以を水落会長の人柄と称え、水落会長と共に来場者に感謝の挨拶をして回った。入りきれないほどの参加者の熱気に包まれ祝宴は二時間半で幕を閉じた。

遺児・付添青年部の参加者募集 慰霊友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の令和5年度事業計画概要がこのほど固まった。この事業は、戦没者の遺児を対象とした事業で、亡き父等の戦没地を

訪れ慰霊追悼を行うとともに、現地の方々と友好親善を深めることを目的としている。なお、令和5年度より戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ語り継ぐことを目的に、付添者の募集要項は次の通り。

▼参加費 10万円。
※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等、さらに日本国内外問わず、新型コロナウイルス

ウィルス感染症対策によるPCR検査等の費用は、個人負担となる。

▼参加資格 戦没者の遺児。(周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る)

▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。

参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目全てに記入を要するの

で、事前に申込書を取り寄せていただき、記入項目に不明な点(戦没者の部隊等)があれば各遺族会に相談し、条件を満たした上で提出願いたい。なお、申込多数の場合は優先となる。

※同事業は、厚生労働省の一般公募入札において補助金交付団体が決定されるので、実施については本会が交付団体に指定された場合に限る。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒、賛同いただきますようお願い申し上げます。

●郵便振替 00130-2-060606
●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0000000000000000000000

※口座名は「一般財団法人日本遺族会」です。

孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1(遺児の参加費からではなく実費の3分の1)の補助が受けられることとなったので、遺児と共に多くの青年部が付添者として参加することを願う。

募集要項は次の通り。
▼時期及び地域 実施計画概要参照。

参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目全てに記入を要するの

事業への参加にあたっては、ワクチン接種証明書、スマートフォン等が必要となっている。

令和5年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業実施計画概要

実施地域	実施時期	募集人員
1 旧ソ連	令和5年8月上旬	40人
2 旧満州	令和5年8月中旬	40人
3 西部ニューギニア	令和5年8月下旬	40人
4 トラック諸島	令和5年9月中旬	20人
5 パラオ諸島	令和5年9月中旬	20人
6 ボルネオ・マレー半島	令和5年9月下旬	40人
7 マリアナ諸島	令和5年10月中旬	40人
8 東部ニューギニア	令和5年10月下旬	42人
9 ビスマルク諸島	令和5年10月下旬	40人
10 インド	令和5年11月中旬	30人
11 フィリピン(1次)	令和5年11月下旬	120人
12 ソロモン諸島	令和5年12月上旬	40人
13 台湾・バシー海峡	令和6年1月中旬	40人
14 東部ニューギニア(特定地域)	令和6年2月上旬	36人
15 西部ニューギニア(特定地域)	令和6年2月中旬	36人
16 ミャンマー(特定地域)	令和6年2月下旬	36人
17 マーシャル・ギルバート諸島	令和6年3月上旬	40人
18 フィリピン(2次)	令和6年3月中旬	120人
19 中国	令和6年3月下旬	80人

再開に向け参加者募集

沖縄平和祈願慰霊大行進

日本遺族会は、「沖縄平和祈願慰霊大行進」を、沖縄県遺族連合会と共催で実施していたが昨年までコロナ禍でやむなく中止となっていた。この平和運動を途絶えさせないよう、今年は、感染防止対策等を行い、実施に向け準備を進めている。青年部をはじめ、多くの遺族に参加をお願いしたい。

本会は沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」の参加者を募集している。全戦域の戦没者遺族が参加可能であり、特に孫ひ孫等の青年部が多く参加し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、語り継ぐ機会としてほしい。

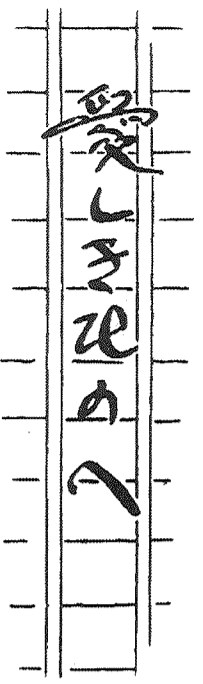
参加者募集要項は以下のとおり。

▼期間 6月22日(木)～24日(土) 2泊3日。

▼費用 4万円～5万円程度。

※費用には宿泊代、食糧代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。

(注)参加人数により費用が異なる。また、自宅から沖縄の往復交通費、那覇市内のホテルまでの往復交通費は個人負担となるので、各自で手配願いたい。



一死奉公

昭和二十年三月十日 陸軍大尉 中川 清

東部ニューギニア・ウエワクにて戦死 大阪府大阪市東区出身 三十歳

吾、日本男児として生を受けて二十有余年、祖国が国連を賭する米英露の戦に参加するの榮譽を担ふ。男子の本懐に過ぐるものなし。先に北滿の地に在る時、独ソの開戦に当たり愈々一死奉公の機至れるを感じ、更に南方に転進するに当たり更にその念を強くす。今又、更に新任地に向かはん。吾、生を日本に受けし所以のものは、今日の皇国存亡の秋に一死以て皇恩の万分の一に報ひ奉らんが為なるを知る。

吾、軍隊生活既に四年、不幸末だ剣電彈雨の間、敵と相見ゆるの機なし。幸にして多年の訓練を生かすの時來る。血湧き肉躍るの感する能はず。死は既に家を出る時、覚悟せるもの。今更何の感慨かあらん。

唯、靖國の御社に迎へらるの日を待つのみ。僅かに日本軍人、特に将校として恥ずるなき御奉公を希ふのみ。二十有八年間の御両親様の御恩を感謝し、今日迄の不幸を御詫びすると共に、千代子、登志子、幼き姪甥達に何等兄として又、叔父として盡すことなきを残念に思ふ。(中略)

皇國が米英を撃破して、新しき大東亜の建設成るの日あるを信じ、吾一命がその一助ともならん事を喜び、皇國の弥栄と聖壽の万歳を祈ると共に、御両親様始め皆様の御多幸と御健康とを祈りつつ。

昭和十八年四月八日

スマトラ・パレンバンに於て
中川 清
【令和五年三月靖國神社社頭掲示】
愛しきものへ

青年部活動報告

徳島県遺族会

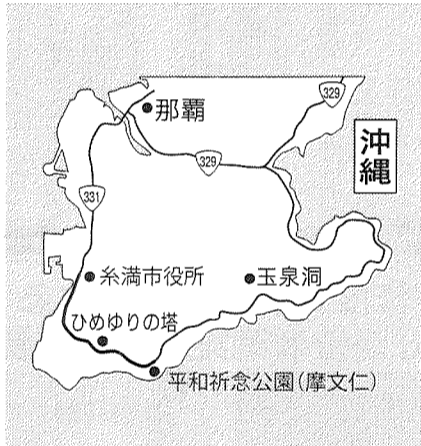
徳島県遺族会青年部は令和5年2月4日、兵庫県神戸護国神社への千羽づる奉納及び、兵庫県遺族会青年部との交流会を実施した。

青年部役員はじめ、坂千代会長他役員10人での訪問となった。

千羽づるの制作は、同会女性部の代名詞と言え



徳島県遺族会青年部が神戸護国神社に千羽づるを奉納=2月4日、兵庫県で



糸満市役所から摩文仁までの約8.5キロを行進

▼宿泊 那覇市内のホテル。

▼申込先 在住する各都道府県遺族会事務局へ。

▼申込締切 5月8日。

なお、行進する道程は、糸満から摩文仁までの約8.5キロとなる。

但し、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によつては、開催が中止となる可能性があることとを予めご了承いただいたこと。

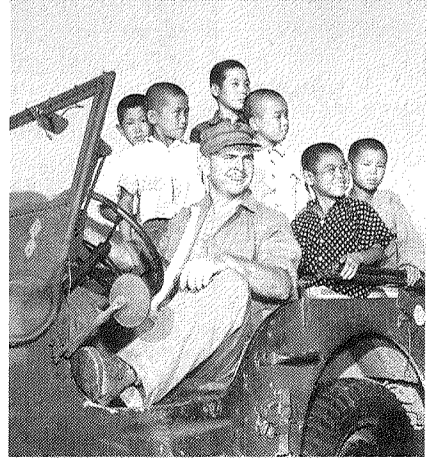
「子供たちの戦中・戦後」

昭和館で写真展開催

昭和館の2階ひろばでは、令和5年3月18日から5月7日にかけて、写真展「子どもたちの戦中・戦後」を開催する。

戦争が始まり戦時体制へ向かっていくと、学校生活や遊びも変化していった。薙刀の授業や、戦車を描いて遊ぶ子どもたちの写真が展示される。空襲が激しくなると疎開が進められ、学童疎開員が確保の困難さ、遺族会長はじめ青年部員との交流会を実施し、今後の遺族会活動、青年部活動について意見交換した。

意見交換では、青年部員との確保の困難さ、遺族会長はじめ青年部員との交流会を実施し、今後の遺族会活動、青年部活動について意見交換した。



（長崎県佐世保市で昭和20年10月撮影）
ジープに乗せてもらった子供たち
=米国立公文書館提供

昭和30年代以降は、遊園地で楽しんだり、「シェー」のポーズをとっておどけたりする子どもたちの写真が展示される。会場では所蔵写真40点が展示され、戦中から戦後にかけ、子どもたちを取り巻く社会がどのように移り変わったのかを紹介する内容となっている。

(写真展問い合わせ先) 昭和館図書情報部03-3222-12574

愛知県で日章旗返還

O BONソーサエティとの連携で

本会が厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者等の遺留品返還」に照会があった日章旗返還式が、豊橋市役所で



返還式で日章旗を受け取った長女の侑子さんと次女の式子さん=2月3日、豊橋市役所で

O BONソーサエティ支援

理事会・評議員会で承認

日本遺族会は、厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者等の遺留品返還」に照会があった日章旗返還式が、豊橋市役所で

返還式では、浅井由崇市長から加藤さんの長女の侑子さん(82歳)と次女の白井式子さん(81歳)に、580人が武運長久を祈って寄せ書きした日章旗が手渡された。

加藤さんが出征した時は、二人とも幼かったため全く父親の記憶がないが、日章旗を受け取った侑子さんは、「父のぬくもりを感じた。ありがたいう」式子さんは「父に会えた気がした」と話した。

訂正

本紙2月(第866号)発行の3面タイトルで「戦後30年にむけた組織継承」と表記しましたが、正しくは「戦後80年にむけた組織継承」の誤りでした。ここに訂正し深謝いたします。